

川崎市職員が毎朝行う出勤登録で打刻忘れを年200件も繰り返した職員がいたことが7日、分かった。出勤情報登録の適正な管理は上司にも求められているが、徹底されていない形だ。

同日の市議会予算審査特別委員会で無所属の三宅隆介氏(多摩区)が質問し、市側が明らかにした。職員は午前8時半までに出勤し、ICカードを管理システムのリーダーにかざし出勤登録する。出勤しても登録を忘れた場合などに打刻漏れとなる。

市人事課によると、市全体の登録件数は年間240万件で、この

市職員出勤登録 打刻漏れ

遅刻隠し? 年200日も

うち2016年度の打刻漏れは8万1749件。職員1人当たり月1回前後となるが、最も多かった職員は200件。次いで187件、182件、165件、160件と続き、連日のように打刻漏れを繰り返す職員がいた。

加藤順一総務企画局長は「打刻漏れが度重なる職員は服務規定違反となるため、厳正に指導、注意を行う」と説明。三宅氏は「年間200日はひどい。打ち忘れではなく遅刻隠しではないのか」と疑問を呈し、市は実態調査を約束した。

(高本 雅通)